

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	05701080760
法人名	社会福祉法人桜丘会
事業所名	グループホームさくら
所在地	秋田市下北手梨平字登館8番地 (電話) 018-892-7227
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年7月6日

【情報提供票より】(平成21年6月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 3月 25日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤20人, 非常勤 0人, 常勤換算 20人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(6月17日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋田赤十字病院、遠山医院、中通歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に程近く、緑の豊富な環境にあり、職員一人ひとりがゆったりとした雰囲気大切に、入居者と共に時を過ごす姿が「普通の暮らし」を体現している。ターミナルケアの準備も進んでおり、書面で本人・家族の同意を得るなど、終の棲家としての役割を果たせるように努めている。これまでの経験や積み上げてきたもの、研修等で得た知識・情報を共有する事を大切に、向上心にあふれる職員にも恵まれ、今後も更なる発展が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、改善課題は挙げられなかった。管理者、職員がより良いケアの提供を目指して、日々努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価の意義を十分に理解し、前向きに取り組んでおり、その結果を再確認し、今後の取組に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地区老人会会長、民生委員、家族等から参加を頂き、2か月に1回開催している。そこで出された要望等を全職員で共有し、運営に活かす取組を行う等、有益な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置すると共に、管理者、職員も家族の訴えを受け止め、皆で対処法を導き出すように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	決して受身になることなく、地域へ出向く事で理解を深めて頂けるよう努めている。法人として地域住民からの相談などの受け皿となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の意見を取り入れた理念を掲げ、入居者のためのケアの基盤となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念を常に意識し、その人らしさとは何なのかを日々考えながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議をはじめ、地域の行事へ積極的に参加する等、地域住民との交流を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を全職員が共有し、これまでの取り組みを再確認し、今後の運営に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で行われた要望等を、全職員で検討し、対応を考えサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を足がかりに、市の方向性を確認する等、サービス向上のための取り組みを行っている。市との連携はよく取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に、ホーム内の様子や金銭に関する報告を行っている。必要に応じて、随時報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から寄せられた要望等を、カンファレンスを通じ全職員で共有し、サービスの質の向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には十分配慮した異動を心がけている。利用者に対するケアの体制も十分できている。適切に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はもちろん、外部研修へも積極的に参加し、参加した職員が研修報告をすることで、全ての職員が研修内容を共有する仕組みが確立されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡協議会に所属し、勉強会に参加し、情報交換したり、相互勉強会に参加したりと交流には積極的に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス利用以前に、本人・家族と十分な話し合いを行い、見学して頂く等、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの菜園では、作業や収穫時期について利用者の方から聞く等、学び支え合う関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦を把握し、一人ひとりにとって望ましい方向性を見出すよう努めている。また、上手く希望や意向を表現出来ない利用者の方に対しても、根気よく理解しようと努め、利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意見・職員の考えを反映し、十分に検討されて作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろんの事、利用者の状況や変化に即応し、随時の見直しが適切に行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じるため、外出等適切な支援が行われている。また、ホーム単独で対応できない場合は、同法人の他の事業所と連携する等、本人・家族が不安無く過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があれば、馴染みのかかりつけ医との関係を継続させている。総合病院とも連携がとれており、適切な支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに看取りも行われており、現在はターミナルケアに対する要望を事前に把握し、書面でその意向を取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや、支援姿勢が利用者一人ひとりのプライドを傷つけないように行われている。記録等は、適切に取り扱われ保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム、職員の都合で入居者のペースが左右されることは無く、生活のリズムが乱れないよう、さりげない支援が適切に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で、準備・片付けなど、利用者一人ひとりが自分の役割を自然に行える環境であり、職員も一緒に楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者の希望を大切にして、健康状態を確認しながら、入浴の希望に沿うように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園で職員と共に、収穫時期について話す等、利用者の生活歴、経験を大切にしながらかき活きと生活できる支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方の希望に応じ、散歩や買い物に出かけるなどの支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者、職員共に鍵を掛ける事の弊害を十分に理解しており、適切に実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、利用者の方の安全について十分配慮されている。地域の方々からの協力も得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養状態、水分摂取量について把握するように努め、適切に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、明るく清潔感にあふれ、ソファやテーブルの配置は、利用者の邪魔にならないように、安全面にも配慮して置かれている。花が飾られたり、行事の写真等から季節感が感じ取られ、利用者にとって自分の居場所となるよう考慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、居室に使い慣れた物を持ち込み、その人らしい独自に空間となっている。		

※ は、重点項目。